

授業科目名	クリティカルケア看護学	担当教員	◎千葉洋介、兼子裕美、 櫻井一江
選択	開講年次：4年前期	単位：1単位	授業形態：講義 15時間

【授業概要】

このコースは、クリティカルケア看護の知識と実践能力を身に付けることを目的とし、救命救急センター、CCU（コロナリー・ケア・ユニット）、ICU（インテンシブケア・ユニット）、HCU（ハイケア・ユニット）、手術室、リカバリーユニットに共通な看護の専門的知識と技術を学ぶ。共通な知識については、クリティカルケアの看護実践を支える理論的枠組み、クリティカルケア看護を必要とする患者と家族の特徴とニーズ、クリティカルケア患者のアセスメント、クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア、過大侵襲に伴う手術患者の特徴とケア、クリティカルケア看護に必要な看護技術やマネジメント技術についてのコンピテンシーを修得する。技術面では、基礎看護で学んだBLSに続いて、高度な心肺蘇生法とICLS（看護師の役割の範囲内で出来るライフサポート技術）、心電図モニターの波形の解説、人工呼吸器をつけた患者の看護、体液・循環管理、体温管理、コミュニケーション、廃用症候群の予防と管理等を含む。

【授業目的・目標】

1. クリティカルケアの看護実践を支える理論的枠組みを説明する。
2. クリティカルケア看護を必要とする患者と家族の特徴とニーズを提唱する。
3. クリティカルケア患者のアセスメント、クリティカルな患者の主要病態の特徴とケアについて論議する。
4. 過大侵襲に伴う手術患者の特徴とケア、クリティカルケアについて論議する。
5. 看護に必要な看護技術やマネジメント技術についてのコンピテンシーのシミュレーターを通して修得する。
6. 急激な健康破綻をきたした患者の包括的なアセスメント技術を修得する。
7. 急激な健康破綻をきたした患者と家族と理解し、回復に向けた看護援助方法についての理解を拡大する。
8. クリティカルケア看護スペシャリストの役割を理解し看護師との連携を理解する。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|--------------------------------------|---------|
| [01] クリティカルケアを必要とする患者と家族の特徴 | (千葉) |
| [02] クリティカルな状態の患者のアセスメント、①主要病態の特徴とケア | (千葉) |
| [03] クリティカルな状態の患者のアセスメント、②主要病態の特徴とケア | (千葉) |
| [04] 過大侵襲に伴う手術患者の特徴とケア、クリティカルケアについて① | (千葉) |
| [05] 過大侵襲に伴う手術患者の特徴とケア、クリティカルケアについて② | (千葉) |
| [06] 急激な健康破綻をきたした患者と家族のアセスメントと回復への援助 | (千葉) |
| [07] 心肺蘇生と看護師にできるライフサポート技術（演習） | (兼子・櫻井) |
| [08] 心肺蘇生と看護師にできるライフサポート技術（演習） | (兼子・櫻井) |

【教科書】

特に定めない

【参考書】

随時提示する

【評価方法・評価基準】

課題レポート（20%）試験（80%） 課題レポートの課題は授業中に明示する。

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前：脳神経系、呼吸・循環器・血液系、消化器・代謝系に関する機能形態および主な病態について十分復習して授業に臨むこと。

事後：クリティカルケアのポイントについて整理し、クリティカルケア看護学臨地実習に活かす

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅳ. テクノロジーを効果的に活用する能力、Ⅴ. 多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅷ. 生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

全ての試験が終了後解答を開示する。レポートはコメントして返却する。

【備考】